

競 技 注 意 事 項

1、規 則

- ① 競技は2020年(公財)日本陸上競技連盟競技規則、及び本競技会要項、申し合わせ事項によって行う。
- ② トラック種目については、すべて決勝タイムレース形式により順位を決める。
同成績の場合、写真判定計時は1000分の1秒での記録判定(優劣)を行う。
上記の方法で決定できない場合は、同着とする。
- ③ 走り高跳を除くフィールド競技種目は、試技三回の記録でトップ8を決定し、残り3回の試技により順位を決定する。
- ④ 2020年(公財)日本陸上競技連盟規則第162条の5(C)の適用について。
音声や動作その他の方法(ピク付き動作等を含む)で他の競技者を妨害した場合、最初は注意(グリーンカード)に留める。
繰り返し行う場合は、警告(イエローカード)を与える。警告後、もう一度、警告を受けた場合、その種目は失格とする。
ただし、それ以降の競技からの除外は行わない(例:100mで失格になっても4×100mRに出場できる)。

2、練 習

- ① 競技場内での練習は、競技に支障がないと判断した場合のみ招集完了をすませた選手のみが行えるものとする。
- ② トラック競技の練習について、直走路スタート及びレーンの指示を放送により行い、競技役員が指示する。
- ③ フィールド競技の練習は、競技開始前も全て競技役員の指示により、競技場内において行う。
特に投擲競技(円盤投・やり投)についてはこの指示を厳守し、周囲の安全確認を最優先すること。
また、競技場外での投てき種目の練習(含メディシンボール類等)は一切禁止する。
- ④ ホームストレート競技(100m、ハードル)の練習は、バックスタンド練習走路とする。
- ⑤ 特に公園内駐車場でアップは、禁止とする(陸上競技場外周路や公園内の園路でのアップは可能)。

3、競技場・スパイクピンの長さ

- ① 本競技場は、全天候型の競技場です。
- ② スパイクピン等の規定は、(公財)日本陸上競技連盟競技規則(143条、2～6)のとおりとする。

4、招 集・入退場

競技場への入場は、体調チェックシート提出者にリストバンドを配布する。リストバンド装着者のみ競技場(スタンド含む)へ入場を許可する。

- ① 招集は2回で、第1次招集はスタートリストに「○」をつけ、第2次招集は競技者本人(代理人は認めない)がスタート付近で行う。
- ② 1次招集開始時刻及び招集完了時刻(移動開始時刻)は、プログラム記載競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

トラック種目の競技者は、1次招集で配布した腰ナンバーカードを、右腰後部につけること。(リレーは第4走者のみ)

種 目	招集開始	招集完了
トラック 競 技	競技開始2時間前開始	競技開始60分前完了
フィールド 競 技	競技開始2時間半前開始	競技開始90分前完了

- ③ 2次招集は、競技開始時刻までに競技者本人がスタート地点(フィールド競技場所)に集合し、競技者係から点呼を受ける。
点呼を受けた競技者は競技者係の誘導・指示により、スタート位置又は試技を行う場所に移動する。

種 目	招集開始	招集完了
トラック 競 技	競技開始15分前開始	競技開始10分前完了
フィールド 競 技	競技開始50分前開始	競技開始45分前完了

- ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権をするものとし処理する。
(スタート地点・競技場所に1次招集所の確認がなく集合した場合、出場を認められない。)
- ⑤ 競技場への入場については競技者係の指示に従う。
退場について、トラック競技はフィニッシュ後、スタート付近の荷物を回収し所定の階段から退場し、各自チームの待機場所に戻る。
また、フィールド競技は試技終了後、競技役員の指示で競技場から退場する。競技終了後は速やかに帰宅する。
なお退場の際は、手洗い等感染防止の手順を踏むこと。
※ いかなる場合も本部前の通行は禁止とする(ホームストレート:100mの30mから80m付近)。

5、ナンバーカードおよび腰ナンバーカード

- ① ナンバーカードは、胸(腹ではない)と背に、しわにならないように伸ばして、四隅をしっかり装着する。
ただし、跳躍競技は胸または背だけの一枚でもよい。
- ② トラック種目競技者は、一次招集所(受付)で配布された腰ナンバーカードを右腰後部に装着する。
(ただし、リレーは第4走者のみとする。)
- ③ 上記腰ナンバーカードは、競技終了後に自宅へ持ち帰ること。

競 技 注 意 事 項

6、3000m・5000m競技のスタート方法及びオープンレーンについて

一般高校男子5000m・一般高校女子3000m・中学男子3000m競技は、グループスタートを採用する。

その場合のスタート方法は、各組のレーン番号のおよそ2/3までが内側スタートグループ、残りが外側スタートとなる。

なお、スタート10m以内には内側・外側を分離する縁石は設置しない。(163条5(b)(c))

7、スタートルールについて

① 一般高校・中学男子・女子種目競技について

- ・不正スタートは、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。
- ・規則第162条5、スタートルール。

規則第162条の5.(c)により、音声や動作その他の方法(ピク付き動作を含む)で他の競技者を妨害した場合、警告(イエローカード)を与えることがある。最初の警告を受けた後、2回目以降の警告を受けた場合は、その種目は失格とする。ただし、それ以降の競技からの除外を行うものではない。

③ 小学生男子・女子種目競技について。

スタートコマンドは、日本語でコールし、同一人が2回不正スタートをした場合に失格となる。

8、リレー競技について

① リレー競技のオーダー用紙は、その競技種別種目の第1組1次招集完了時刻の1時間前までに、1次招集所に2部提出する。

オーダー用紙は1次招集所に準備してあります。

なお、棄権するチームは、オーダー用紙に棄権の連絡を記入し、招集完了時間内に提出すること。

② リレー競技においては、原則としてチームの出場者は同一ユニフォームを着用すること。

③ リレーのマーカーの使用は1カ所とする。(第170条4、を適用)。なお、マーカー(マーキングテープ)は主催者が準備したものとする。

9、走高跳のバーの上げ方

① 走高跳におけるバーの上げ方は次の通りとする。(天候、その他諸事情・条件によって変更する場合もある)

競 技 種 目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	備 考
中学男子走高跳	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70		以降
中学女子走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45				順位確定後は
一般高校男子走高跳	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	審判長の指示による。
一般高校女子走高跳	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50				

② 第一位に関わる競技者が同成績の場合について。第一位決定のためのバーの上げ下げは2cmとする。(181条8、9)

10、表 彰、記録証

① 各種目8位まで入賞した競技者は、記録結果放送を行う。後日決勝一覧表をホームページに掲載する。

② 全競技種目3位まで賞状・メダルを授与する。但し表彰式は実施しない。

全種目入賞4位～8位は、記録証を授与します。

③ 一般の方、小学生クラブチームの入賞者は、放送連絡を行いますので、本部に賞状・メダル・記録賞を受取りにお出で下さい。

なお、入賞した競技者が集合できないときは、チームの代表者または代理者が、本部に受け取りにお出で下さい。

中学校・高校の入賞者は、顧問・指導者の先生方にお渡ししますので、本部に賞状・メダル・記録賞を受取りにお出で下さい。

11、記 録

① この競技会の記録については、(公財)日本陸上競技連盟への公認申請を行います。

② トラック種目の競走競技はすべてのレースにおいて、写真判定(電気計時)を採用する。

③ 写真判定計時は、同一記録の場合、0.001秒での着差(優劣)判定を行う。(167条)

④ 記録の発表は放送によるものとし、掲示発表はしない。後日ホームページにリザルトを発表する。

競 技 注 意 事 項

12、競技からの除外

- ① 審判長は、競技運営上必要と認めた場合、レース圏外の競技者のレースを中止させることがある。
- ② トラック競技は、競技会開催要項15備考②A、競技継続の打ち切り時間です。
周回制限時間超過として、競技継続の中止を審判長が宣言し、DNF扱いとします。

☆一般男子5000m【16分00秒】、☆一般女子3000m【11分00秒】、一般女子1500m【4分15秒】

☆中学男子3000m【10分45秒】、中学男子1500m【4分15秒】、☆中学女子1500m【4分30秒】

13、抗 議

2020年(公財)日本陸上競技連盟競技規則第146条によるものとし、競技結果の正式発表後30分以内とする。

14、その他

- ① プログラム記載内容の訂正は、両日とも第1次招集完了時刻までに受付へ申し出ること。
- ② 控所、トイレ等の競技場内外及び付帯設備の整理・整頓に努める。
(各団体・学校の責任者及び顧問の先生方へ。ゴミ・空缶等の持ち帰りの指導をよろしくお願いいたします。)
- ③ 各自の持ち物については自分自身で管理し、盗難には十分注意すること。主催者で責任は負わない。
- ④ 競技場(スタンド含む)には、競技者・競技役員以外には入ってはいけない(リストバンド着用者以外の入場は認めない)。
競技者は、フィールドを横断して試技場所への往復、本部前通行は禁止とする。
(スタンド及び陸上競技場外周路を通して、スタート地点・競技場所に移動する)
チームメイトのウェアなどを受け取りに、競技者以外がグラウンドに入場することを認めない。
- ⑤ 競技中に発生した事故などについては、応急処置を主催者で行うが、以後の責任は負わない。
競技参加者は、スポーツ傷害保険等に加入していることが望ましい。
- ⑥ 陸上競技場以外の公園内施設は、借用していないので使用・立ち入らないこと。

15、感染症対策事項について

競技会に関する方全ては毎日の検温(0.1℃単位)を実施し、体調がよくない場合(当日朝で37.5℃以上の発熱・咳・咽頭痛等の症状がある)、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合、過去14日以内に入国制限及び入国後の観察期間を必要とされている国や地域への渡航または当該在住者との濃厚接触があった場合等は、感染防止のために自発的に競技会へのご参加をお控え下さい。

- ① 当日の競技場入場者(競技者・監督・コーチ等、競技会審判役員及び競技会役員補助員、競技会主催者団体関係者)は、全ての方が「JAAF体調管理チェックシート」に記入し、御提出ください。このチェックシートを提出されない場合は、競技場入場を許可できないことがあることをご承知ください。及び、終了後2週間「JAAF体調管理チェックシート」にご記入ください。
- ② 不確かな競技者(一見して体調が悪そうに見える、顔がほてっている、咳、鼻水の症状(風邪の症状)が見られる等)の場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない。
- ③ 競技場入場者は全て、三密を回避し、マスク(バフ等も可)を着用。競技者は競技中以外常にマスクを着用し、咳をする際には、咳エチケットにより飛沫を飛ばさないよう感染症防止に努める。
- ④ 適宜、競技活動・競技役員活動の区切りには競技場内での「手洗い・手指の消毒・洗顔」を実施し、感染症防止に努める。
- ⑤ 滑り止め(炭酸マグネシウム)の利用については、共有しない方法で実施するので主催者準備・配布はありません。
競技者は自分専用のものを準備してください。
- ⑥ 競技会開始一週間前・競技会当日・競技会終了後二週間、体調管理を徹底し、競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合は最寄り医師等報告・相談後必ず競技会主催者に連絡すること。
- ⑦ 大会主催者の免責事項:
新型コロナウイルスの感染防止には万全の対策を期すが、万が一感染してしまったとしても、大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任を負うことはできない。